（様式１）地域生活支援拠点等の機能・運営状況の総括表

◆ 貴市町村の地域生活支援拠点等の目指している姿
重度化や高齢化への対応や、親亡き後も見据えるとともに、障害者等の入所施設や病院からの地域移行を進めるため、地域の生活で生じる障害者等やその家族の緊急事態に対応を図り、安心して生活することができる地域体制を構築すること。

◆ 第７期障害福祉計画 （令和6年度～令和8年度）における地域生活支援拠点等の目標について

	令和６年度末の地域生活支援拠点整備数	運用状況の検証・検討回数		
		障害福祉計画の1年目（令和6年度）	障害福祉計画の2年目（令和7年度）	障害福祉計画の3年目（令和8年度）
目標値	3箇所	年 １ 回	年 １ 回	年 １ 回

障害福祉計画の２年目 地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価に係る総括

Ⅰ．地域生活支援拠点等の機能に関する評価指標

(a) 【要支援者の事前把握及び体制】緊急対応など支援が必要となる障害者・障害児（強度行動障害者や医療的ケアが必要な重症心身障害者、潜在的要支援者等）の事前把握・登録・名簿管理、関係機関との情報共有

コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価

◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）

プルダウン選択☛ 一定程度できている

※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること

◇現状・課題に係る評価（自由記述）

・各拠点の利用者については把握できているが、それ以外の人は把握できていない。
・緊急時の支援が見込めない者の事前把握・登録ができるよう、サービスを利用していない人から拠点に相談があった場合の「相談受付票」「同意書」をR7.11月に作成し対応している。R7年度は登録実績なし。

◇今後の対応等（自由記述）

サービスを利用していない障害児・者を引き続き把握していくため、基幹相談支援センターや基幹サブセンター等と連携して把握に努める。

(b) 【相談機能】把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時を含む相談体制の確保

コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価

◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）

プルダウン選択☛ 一定程度できている

※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること

◇現状・課題に係る評価（自由記述）

・３拠点とも24時間365日の受付体制を確保している。
・夜間、休日の相談支援体制について、人員が不足している拠点はあるが、相談には対応できている。
・岡山市障害者基幹相談支援センターと連携し、専門的見地からの助言・指導をもらい、支援力向上に努めている。

◇今後の対応等（自由記述）

引き続き相談に対応できる人材を育成していく。

(c) 【緊急時の受け入れ・対応】把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時の受け入れ先の確保

コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価

◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）

プルダウン選択☛ 一定程度できている

※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること

◇現状・課題に係る評価（自由記述）

・緊急時の受け入れのフローチャートを作成済。
・令和６年７月から３拠点による当番制（４ヵ月ごと）で受け入れ先を確保しているが、実績なし。
・相談支援専門員からの相談により拠点にて受け入れ先を探すことがあり、本人の特性等によっては受け入れ先を見つけることに苦労するが、緊急時居室確保事業を使用することなく対応できている。

◇今後の対応等（自由記述）

短期入所を体験利用しておく等、日頃から受け入れ先の確保に努める。

(d)　【地域移行のニーズ把握】 障害者等の入所施設や精神科病院等からの地域生活への移行や地域生活の継続についてのニーズの把握	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価 ◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☛ 一定程度できている ※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること ◇現状・課題に係る評価（自由記述） ・岡山市自立支援協議会の地域移行に関する会議に参加し、精神科病院入院中の患者の地域移行ニーズについて情報収集している。 ・入所施設からの地域移行について、地域の受け皿や施設のモチベーション、家族の理解等の課題があり、移行を希望する事例があまり挙がってこず、把握できるニーズは少ない。 ・児童養護施設等、児童の入所施設からの移行調整にも対応している。 ◇今後の対応等（自由記述） 引き続き、入院・入所している障害児者のニーズの把握、調整に努める。
(e)　【体験の機会・場の確保】 把握した地域生活への移行や継続のニーズを踏まえた地域生活の体験宿泊等の実施	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価 ◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☛ 一定程度できている ※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること ◇現状・課題に係る評価（自由記述） ・短期入所等の体験の機会・場の確保はできている。 ・R7年度実績なく、体験宿泊が必要な人はグループホームや短期入所の支給決定を受け、体験できている。 ・アパート等の一人暮らし用の体験については確保できていない。 ◇今後の対応等（自由記述） ・地域移行支援WG等からの情報収集・ニーズ把握に努め、ニーズを踏まえた体験の機会・場の確保と体制づくりに引き続き努める。 ・体験を有効に活用できるよう利用までのプロセスの整理を進める。
(f)　【専門的人材の確保・養成】 専門性の確保に向けた取組の実施	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価 ◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☛ 一定程度できている ※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること ◇現状・課題に係る評価（自由記述） ・相談支援事業所を立ち上げたばかりや、経験年数の浅い相談支援専門員に対し、実際のケースを通じて知識やスキルを習得する研修を実施している。 ・岡山市障害者自立支援協議会地域部会において、参加者の視点を広げ質の高い援助が行えるよう、事例を通じた研修を実施している。事例は、強度行動障害等の専門的なものでなく、一般的な困難事例が多い。 ◇今後の対応等（自由記述） 強度行動障害や医療的ケアが必要な人への対応の他、触法障害者への対応や地域でのチーム作りの取組、成年後見制度等、より専門的な視点を研修に取り入れていく。
(g)　【地域の体制づくり】 把握した障害者・障害児の地域生活のニーズを踏まえた地域の体制づくりの実施	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価 ◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☛ 一定程度できている ※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること ◇現状・課題に係る評価（自由記述） ・岡山市障害者自立支援協議会地域部会において、相談支援専門員から挙げられる地域の課題について把握し、専門部会での協議に繋げている。 ・サービス管理責任者との合同意見交換を実施し地域課題の抽出に努めている。 ・地域の体制づくりにおいて、教育と福祉の連携を進めている。 ◇今後の対応等（自由記述） 地域の体制強化のため、協議会の専門部会や地域生活支援拠点WG等を活用し、他分野とも引き続き連携を深めていく。

Ⅱ．地域生活支援拠点等の運営状況に関する評価指標

(h)　【拠点等の運営状況】 地域住民に対する周知・広報ならびに関係機関との連携体制の構築	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☛ 一定程度できている ※様式２の詳細の評価を踏まえて評価すること
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ・岡山市障害者基幹相談支援センターや行政と定期的に協議し、地域生活支援拠点の体制整備を進めている。 ・岡山市障害者自立支援協議会HPに地域生活支援拠点に関する情報を掲載した。 ・地域生活支援拠点の概念はわかりづらい側面があり、利用者や地域住民に周知できているとは言い難い。
	◇今後の対応等（自由記述） 地域生活支援拠点の各事業の周知について、引き続きわかりやすく伝える方法を検討していく。